

はじめに

日本人の英語熱はかなり高い。大学受験の際に勉強せざるを得ないからなのか、未だにアメリカに対する憧れがあるからなのか。社会人でも英語を勉強している人は多い。こうしたニーズに答えて数多くの語学書が出回っている。

英語を学習する上で中心となるのはやはり**英文読解**であろう。明治維新以降の「西洋に追いつけ追い越せ」の精神で西洋文明を研究する際にも、まずは西洋の書物を読み解くことが主であった。英語を日本語にする作業が求められたわけである。おかげで、**英語から日本語への翻訳術**はかなり進んだ。自ずと我が国の英語学習は**読解中心**になっていった。

受験参考書においても、**英文読解**については事細かに説明されているものが多いが、**英作文**となると、ただ英文が羅列されていて、「とにかく覚えろ」的なものが大半である。英語熱が高い今日でさえも、**英作文**の習得術はあまり研究されていないようである。

私は長年、予備校で外国人講師とペアで英作文の授業を担当してきた。その際に私自身もたくさんのお話を教わった。生徒がどういう英文を書き、どういう間違いをするかもある程度予想できるようになった。間違いの原因の一つとして、**従来の英語教育の説明に素直に従うと却っておかしな英文になることがある**。そうした項目の中で汎用度が高いものを以前『受験英語禁止令』(研究社)でまとめ、反響をいただいた。今回は実際の入試問題を通して、もっと具体的に問題点を提示してみたいと考え、本書の執筆を思い立った。

英作文の指導法にはほとんどマニュアルがない。そこで、今後の英作文教育の指針となるべく、**和文英訳の取り組み方を提示してみたつもり**である。敢えて偉そうなことを言わせてもらえば、後醍醐天皇の言葉を借りて「**朕が新儀は未来の先例たるべし**」といったところか。もちろん、私の先走りすぎの部分もあろうかと思うが、本書をきっかけに少しでも多くの日本人の英作文力が向上し、我が国の英作文指導術も形成されていくことを切に願う。

2009年12月

小倉 弘